

2022年4月22日(金) 第2871回記念例会(会場:エクシブ湯河原離宮) 天候:くもり 合唱:君が代、奉仕の理想

会長 室伏学 幹事 望月博文

事務所:神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会内 TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716

例会場:ニューウェルシティ湯河原 例会日:毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

室伏学

2021~22年度、湯河原ロータリークラブ第60代会長の室伏学でございます。ご来賓の国際ロータリー第2780地区ガバナー・田島透様、第9グループ・ガバナー補佐・木村隆也様、当クラブ名誉会員・平松礼二様、令夫人・裕子様、および、会員の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症が収束しないまま長引く中、また、ご多用の中、ご臨席くださいまして、誠にありがとうございます。

私たち湯河原ロータリークラブは、1962年4月20日に創立いたしました。その後、60年の長きに渡って、奉仕と親睦に努め、和やかなクラブであり続けました。創立の1962年に、まだ生まれてもいなかった私としましては、60年の歴史の重さを思わずにはられません。この記念すべき年に、会長を務めておりますこと、とても光栄に思っております。

3月に予定しておりました盛大な記念式典は自粛いたしましたが、規模縮小とはいえ、湯河原ロータリークラブゆかりの旧「天野屋」さん跡地、当「エクシブ湯河原離宮」において、このように華やかな60周年記念例会が開催出来ますこと、とても喜ばしく思っております。

湯河原ロータリークラブが60年の長きに渡り、様々な活動の歴史の中で、善意の輪を広げ、地域社会の理解を得て、穏やかに日々を重ねて参りましたことは、創立以来の歴代会長、先輩ロータリアンの方々を始め、会員の皆様の努力の賜物でございます。また、ガバナー、ガバナー補佐を始め、第2780地区の皆様方の温かいご指導とお力添えによるものと、心から感謝申し上げます。

10年前に50周年記念事業として湯河原中学校前(湯河原駅入口交差点)に設置した「四季彩の塔」モニュメントの脇に、この度、60周年記念事業として電波時計塔を寄贈いたしました。この先、70周年、80周年、更には100周年に向けて、時を刻みながら、湯河原ロータリークラブの「奉仕の理想」の追求を見守ってくれるものと思っております。

これからも皆様方のより一層のご指導、ご支援とご協力をお願い申し上げます。ありがとうございます。

出席報告

会員	26名	出席率	96.15%
欠席	1名	前回の修正出席率	84.00%
(免除者)	0名	前々回の修正出席率	68.42%
ゲスト	1名	事前メイクアップ	0名
ビジター	3名		

ビジター

国際ロータリー第2780地区 2021-22年度
ガバナー 田島透君(ふじさわ湘南)

国際ロータリー第2780地区 2021-22年度
第9グループ・ガバナー補佐 木村隆也君(小田原)
湯河原ロータリークラブ 名誉会員 平松礼二君
ゲスト

名誉会員 平松礼二君 令夫人 平松裕子様

幹事報告・連絡事項 なし

スマイル Box なし

(表彰などの詳細は60周年記念誌に収載予定です)



撮影:タケダ印刷/湯河原さいとうスタジオ

ご挨拶

60周年実行委員長 高杉 尚男 君

本日は、60年前に湯河原ロータリークラブが産声を上げた発祥の地、天野屋旅館跡地の「エクシブ湯河原離宮」にて、コロナ禍ではありますが、規模を縮小した中で、サブテーマの「温故知新」を心に刻みながら、ただいまより、湯河原ロータリークラブ 60周年記念例会を開会いたします。よろしくお願いいたします。

祝辞

国際ロータリー第2780地区 ガバナー 田島 透 君



皆様こんにちは。湯河原ロータリークラブが創立から60年を迎えられたこと、心からお祝い申し上げます。おめでとうございます。60年前、高度成長期の中にあり、東京オリンピックも開催されるなど大いに意気上がるわが国において、湯河原ロータリークラブは小田原ロータリークラブをスポンサー

クラブとして誕生しました。湯河原ロータリークラブはこの地域に奉仕の種を蒔かれ、その過程では、湯河原南ロータリークラブ(2011年終結)という新たなクラブも生まれました。

私が公式訪問させていただいた際に感じたことは、湯河原ロータリークラブは伝統を大切にする崇高なクラブであるということです。さらにクラブの強みとして、奉仕、親睦、なにより地域との強い関係を感じます。地域との関係をよく保ちながら、地域から慕われる、必要とされるロータリークラブであると思えますし、これからもそうあっていただきたいと思えます。

60年と言いますと人間では還暦にあたります。還暦といいますと、新たな一步を踏み出そうじゃないかという時期です。ロータリーも新たな一步を踏み出しながら、70周年、80周年、100周年に向かって、地域に根ざした活動を続けられることを期待したいと思います。一方、最近のロータリーでは「将来に備えよう」ということが言われています。ロータリーでも7つめの重点分野「環境」を設定し、地球温暖化や海洋汚染などについて、何か考えていかなければならないというメッセージを発しています。世界は大きく変わっています。目の前に迫る未来形成に向かって、どのロータリークラブも変革を行っていかねばなりません。湯河原ロータリークラブももちろん例外ではありません。これだけの伝統あるクラブだからこそ、なお強い力で変革を行っていただければと思います。

今回はこのような素晴らしい席にお招きいただき、ありがとうございます。これからも10年後、20年後、40年後に向かって活躍されることを祈念いたしまして、ガバナーからの挨拶とさせていただきます。

祝辞

湯河原ロータリークラブ 名誉会員 平松 礼二 君



今日はお招きいただきありがとうございます。このような機会をいただきましたので、思いついたまま少しお話をさせていただきます。

私は長い間ずっと、教育者として大学の現場で指導に携わってきました。常に明日を語り、未来を語り、20代の若者らと共に一生懸命に取り組んできました。そして様々な縁があり、湯河原ロータリークラブの皆様と知り合い、このような場に立っていること、感謝しております。

さて、この場に相応しいものかどうかは疑問もあり、少し割り引いてお聞きいただければと思いますが、昨今、世界が一体この先どうなるのか、といった報道が連日行われていますように、恐ろしい現実がそこにあります。

4月15日、ウクライナの首都(キーウ(キエフ))にて、当地の劇場で一日だけ演劇が開催されたというテレビを見ました。そこで見た観客の食い入るような目、幸せだった日を思い出すような目、あの日を取り返すんだというような目から、色々な感情を読み取ることができました。考えてみれば、そうして辛い目に遭っている人々の昨日と今日と明日もある一方、戦争をしている方、させている国にも、かの有名なポリショイバレエ団やレニングラード交響楽団などがあり、もちろん小説家、作家、研究者、様々な世界的な文化資産を形成している人々がいらっしやいます。そして大半の人々が、明日を明後日を明後後日をもっと良くしたいという思いで、日々を生きているわけです。それが政治家によってこのような事態を迎えていること、とても悲しく思います。特に未来ある若者、これから自らという種から花を咲かせるような人々に対し、このような苦しくて、悲しくて、身の置き所のない世界を作ってはいけないと思わずにはいられません。

私は、与えられた役目として、彼らの活躍する場所を作って、自分たちの生きた証を証明していきたい、こう思うのであります。今回このような場に似合う話題から少しはみ出してしまったかもしれませんが、芸術家として、研究者としての心情を汲み取っていただければと思います。

本日は誠にありがとうございました。

(編集 4月会報担当: 櫻井武志 / クラブ会報委員会)